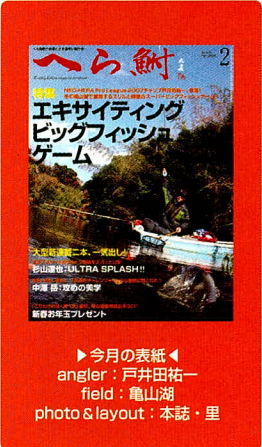


カラー

- 20 石井旭舟 へらぶな浪漫街道
《第六十一回》千葉県・印旛新川(いんばしんかわ)
- 26 《新連載》小池忠教 激釣テクニカルアドバイス
《第一回》野田幸手園で浅クナウトンセット ゲスト・福富大祐さん
- 32 《新連載》生井澤 聡 挑戦者魂
《第二回》【富里乃堰】激釣、両グル用!!
- 50 《新連載》小林恭之ノルマでGO!!
《第二回》三名湖・網中で束釣りせよ!
- 54 伊藤さとし「将鱒へらスパープロフロ&スパープロPlus」で吉羽園を攻略する!!
- 58 早川浩雄「鉄壁・早川スタイル」
《第七回》冬の田良田湖・網中、バラケ&グルテンの底釣り
- 59 最狂へら戦士養成所「鮒の穴」 漢タカハシ
《新春特別対談》ゲスト・フラー川上氏 前編
- ★AREA REPORT
61 釣堀八十八(千葉県) 本誌・伊藤洋一
62 河北湖(石川県) 山本一朗 河口正伸
63 ひだ池(岐阜県) 後藤誠
64 竜田川釣り池(奈良県) 前田誠志
- 134 《新連載》竹竿の似合う釣り場
《第一回》横利根川
- 138 ダイワへらマスターズ2007全国決勝大会
- 143 岡田清 Deep Side Angle
《Vol.47》【岡田流グルテン道】たけのこ湖
- 148 田辺新男 MYへら道
《へら道への十二》椎の木湖のモンスター新へらに会いたい!
- 152 《新連載》天野正由 緑萌ゆる釣り場を巡る
《第二回》放流つてすばらしい 奥多摩湖
- 156 柴舟「至連」「世志彦」による火入れ・込みサービス!
- 158 筑波湖 開業記念賞金大会



2007吉羽園賞金大会

- 160 フィッシンググレディ
《今月のレディ》永藤かおるさん 逆井へら鮒センター
- 194 《新連載》棚網久 全開MAX
《第二回》水坂沼で全開!! (埼玉県)
- 200 北川穂積 西の交友録
《第二十五回》ゲスト: 藤倉忍 釣り場: 大内ダム(香川県)
- 202 伊田釣具店 魚心観創竿五十年・寿仙デビュー記念展示会
- 205 釣り味
《第12回》立喰そばうどん「あかくら」天ぷらそば&カレーライス
- 206 釣果予想クイズ
■モノクロ■
- 66 《新連載》特別企画 ウキ作り試行錯誤
《第二章》ウキを考察する その2
- 74 へら鮒釣り 超基本講座
《第35回》道具作り編 ハリ外し
- 86 ガチンコ道場
《第27回》のりちゃん、チキン対決十番勝負!!
- 97 江成公隆のトーナメント、復活への道。
《Vol.68》精一杯。
- 102 水辺のプラネタリウム 吉本亜士
《今月の星野》「鑑真東渡」
- 110 《新連載》へら鮒Cafe 西田美明
《Vol.2》出し張りは一級ボヤン!

208 「こだわりの店・黒へら」提供
新春お年玉プレゼント

45 新連載 大型狙いで「底」を攻め抜け! へら学の森泉園

39 新連載 メーターワンドンセットの王道を説く! 府中へら鮒センター

12 特集 ネオへら二連覇・戸井田祐一が冬の亀山湖で展開する、スリルと興奮のドキュメント!
エキサイティングビッグフィッシュゲーム
杉山達也 [ULTRA SPLASH!!]

中澤岳 [攻めの美学]

釣り場割引クーポン券 p.163~
野田幸手園 椎の木湖 清遊湖 谷和原大沼 上尾園
F.A吉羽園 谷養魚場 将監 柳生 F.P 筑波白水湖
泉堰 逆井HC 友部湯崎湖 三和新池 川越FC
鳥羽井沼 大上へら池 霧の沼 小川つり堀園 府中HC
清川つくしFC 千代田湖・舟宿 千和 相模湖・釣舟 五宝亭
相模湖・釣舟 天狗岩 吉森HC 甲南へらの池 当麻池
水藻FC 朝日池 釣り堀八十八 谷中国 浜野HC

※戸張誠【関へら戦記】は誌面の都合によりお休みさせていただきます。

STAFF

- 発行人 根本百合子
- 編集長 田中里史
- 編集部 大場勝良 諸富一秋 伊藤小百合 伊藤洋一
- へら鮒NET 根本大作 八十田昌広
- 企画 <オフィス・えび> 藤原 肇

- 114 《新連載》永久釣りバカ宣言。 青藤心也
《第二回》「炎のチョーチョン」2番対決!! を振り返って②
- 116 水と戯れ、風と遊ぶ ホワイト
《第13回》田舎待放浪記
- 118 野田幸手園新聞
- 120 柴舟「SAKAI倶楽部」懇親会 狭山HC
- 163 フクフク管理釣り場情報
- 170 小売店情報
- ★へら鮒BOX
里ちゃんのイケイケ編集長雑記
情報発信基地
ボイス
コラム「日研だより」 日研広報部長・遠藤亮己
コラム「上村流!」 上村恭生
コラム「紀州・想いの竹のものがたり」 中巻伸行
プレゼント発表
広告索引
編集後記
- 188 187 180 176 175
- 192 191 190 189

この物語は、
 栄光、そして挫折を味わい、
 今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

江成公隆の トーナメント、 復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka
 業界初 Web運動企画！ (URL) <http://hooor.yokohamaturuminet>

〈Vol.68〉

精一杯。

11月23日行われた「第三回ナリーズ杯in富里乃堰」に参加
 のみなさま、厚く御礼申し上げます！ その数、なんと
 138名。とても写真に納まり切れません。

…つうか、カラーコーンくらいどかさせての！ by里ちん



寄贈&協力 (順不同)

キャストイング様 株式会社まかつ様 松岡釣具 (MFC) 様 Bee's Boon様
 街ウイズホーム様 株式会社アムデザイン様 「ディテール」factory浮楽園・速水様 栄釣具様
 マルクキュー株式会社 サンデーマスターズ 岡崎一誠様 「まこと作」佐藤 誠様
 富里乃堰様

上位三名釣果 (敬称略)

1. 山倉真吾 26.4kg
2. 中澤知歌美女史 24.2kg
3. 保科健二 22.2kg

募集定員の200名には遠く及ばないが、
 第一回の約50名、第二回の約100名に続き、
 今回の138名は、主催者の僕が書くのはま
 ったくのアホだが、素人主催のイベントとし
 ては脅威の数字ではないかと思う。
 ナリーズ杯の新しい大義として、「放流資金
 の寄贈」が加わったことは先月号に書いた。
 寄贈手続きのカタチとしては結局、額面分の
 放流バジ購入ということになるようだ、
 女性参加者に負けた男性参加者から徴収した
 罰金(1000円~10000円上限) 総額52
 050円が充てられることになる。1000円
 単位なのに50円という端数がよく分らない
 が(笑)。放流といえば、先月号に書いたへ
 らのピラミッドの話、やっぱり釣りごろサイ
 スの流通量は減っているらしい。大会後の打
 ち上げで、チラツと耳にした。

ご参加いただいた皆様、本当にありがとう
 ございました！ 渋い一日でしたが、表彰
 式での皆様の笑顔に救われました。次回もぜ
 ひご参加下さい！ P.S. 戸井田さんは隣で
 釣り過ぎ！

11月23日、富里乃堰にて第三回ナリーズ杯
 を開催した。当初は富里オーナー壇谷氏から、
 「50名でも貸し切りでいい」という太っ腹なお
 話は聞いていたものの、そうはいかないと必
 死で参加者を募った。この連載での告知では
 200名を定員としていた。しかし、僕ら素
 人集団に200名も集められる筈もなく、直
 前に貸し切りは辞退させていただいていた。
 ところが、予想に反して当日は138名もの
 参加者があった。

三度目のFISH。

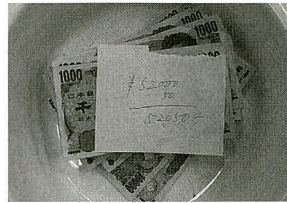


上位3名と、ラッキー賞の方々。江成とパチリ



この商品の山は凄い！「参加者各自持ち寄り」もスリリングである

ゲストを交えて、大会終了後のミーティング。中央に陣取りこちらにケツを向けているのは、お約束の暴走機関車



¥52,050—



もしかして本誌初登場？ アノ岡崎一誠氏の総評！そして、文中の通りホントに感慨無量の表情を浮かべている江成…

<photographs by mimi>

200名の定員を集めるため東奔西走？する平山幹事長をバックアップするため、今回も僕は手伝った。「手伝った」というより、今回は釣り場に迷惑はかけられないという思いから、かなり能動的に、僕の携帯の電話帳に入っている釣り仲間や先輩方へ片っ端からかけまくった。そんな中、「さすがにこの人にはかけられないな」と思ってしまう人が、釣り場では八方美人で誰とも喧嘩しないできたつもの僕にも「いる」ことに気付いた。それは、やはり以前の人間関係が「…」な人だったり、恥ずかしい話だが、さんざんお世話になりながらも僕からのご挨拶が疎かになっってしまった方だったり…。後者の中で、意を決して電話をかけた筆頭格の方が、今回表彰式で総評をいただいた岡崎一誠氏だった。ゴルフクラブの大先輩であり、古巣サンデーマスターズでは会長であり、永遠の憧れでもあった岡崎氏と、大久保隆司氏や水内順氏をはじめとしたサンデーマスターズ役員の方々には、僕はどうしても参加していただきたかった。ゴルフの大先輩である富永氏と再会し、岡崎氏の名前が会話に出てきたことは、12月号に書いた通りだが、「戻りたい、でも戻っちゃいけない」僕の決心をぜひ見ていただきたかったからである。快くご参加を表明いただき、僕の想い全てを一発で汲んでいただいた総評は、中澤 岳氏の朝の開会スピーチ同様、涙が出るほど嬉しかった。

第一回の記事で書いたが、今回も一部の参加者達にとっては、ナリーズ杯がオフ会になっていったようだ。もちろんナリーズメンバーの平山奥様（今やハンドルネームもへったくれもない）が精力的にネットで活動しているからこそその結果だが、あらためてネットの凄さを感じた。ネットに国境はないから、当然ながら県境もある筈がなく（笑）、広域のコミュニティが形成出来るのが魅力だ。とはいえ

オフ会となれば、会場までの距離はヴァーチャルではないので大変である。（特に今回泊まりがけでご参加いただいた関西方面の皆様は、本当にお疲れさまでした。一昔前のトーナメントである自分にとって、西のトーナメント！小森正己氏のご参加は、驚きと感動でした。姉妹会「モリーズ」を立ち上げるというお話ですので、今後とも宜しくお願い致します。）

規模が膨れ上がり続けるナリーズ杯は、スタッフにとって毎回毎回、次回がプレッシャーになる。あくまでも「みんなが主役」、「心からリラックスして楽しめる場の提供」がテーマであり、人をたくさん集めることが目的ではないものの、放流資金の面では、確かに参加者が大勢いた方が罰金も高額になる。ただ、そういう面を除いても、数字で見られがちなのがこういうイベントの性だし、実際に数字が力を持つ側面は否定出来ない。メッセージ性の高いイベントには、方向性が違う人は軽はずみに参加表明出来るものではないが、人数が増えれば増えてくるほど、「参加しておかないとマズいかな」というプレッシャーを感じる未参加者が出てくる可能性がある（心配し過ぎか。なので、書いておきます。ナリーズとナリーズ杯は別です。参加したら最後、即ナリーズ入会と書いたこともありますが、あくまでも冗談です。肩肘張らずに気楽にご参加下さい。第三回を終えてみて、今回が本当に200名集まっていたら運営はバンクしていただろうという感想が多く、「今後さらに人を集めてどうこうしてやろう」なんてこれっぽっちも思っていない。第四回ナ杯は開催予定ですが、「現在の規模での年一回開催は、スタッフ員数と準備期間も考えるとかかなり厳しい」という意見が出るほど、素人集団には荷が重いイベントなんです。ご安心下さいませ。



「気分」総括2007。

作る作ると書きながら、いまだに歯抜け状態のままのウキケース。長男が幼稚園にあがる時、たしか僕は、「今後は平日の昼間が自由になるので今年こそは！」と書いた。時間が経つのは本当に早いもので、いつのまにかその長男は小学生になっており、今度は次男が幼稚園に通う歳になった(つて、何年経ってんだよ...)。ので、「今度こそ...」でも、やっぱり無理かな。僕の横で入園金を数えている女房に向かって、「今年は釣行回数を増やすぞ♡」と、高らかに宣言する気にはとまなれない。ガソリンの高騰はとどまるどころを知らないし、正月は車検もあるしな...。

よく指摘されることに、「釣りに行かない・釣れないヤツが能書きをタシるな」というのがある。僕もよく書いていたが、これには僕自身「そう思われるよなあ」とは感じていた。ただし、「釣りに行かない」「イコール」「情熱がない」のではなく、時間的や経済的な問題など諸事情により、「さうさう簡単には行けない」ということは理解していただきたいと常々感じている。「釣り場に行かなくても脳内で釣りは出来る」という、僕のささやかな楽しみと、いかか小さな幸せを否定されるのはとても辛いことなのである。開き直りだととられるかもしれないが、「釣れないヤツに能書きをタシる権利がない」とは、僕は思わない。何せ「100%の正解」はない遊びなのだ。どんなへボにもパズルを解く楽しみはあっていい。しいて言えば、結果を出せない釣り人が能書きをタシる時、その本人に「自分はへボなんだけどさ」という自覚というかポーズがあるかどうかは、人間関係形成上、重要なことだとは思う。

その点で僕は、とつくにへボだと自認し、記事にも書いていたので勘弁してネ♡

ナリス平山幹事長には「簡単なことを難しく書く天才」と、よく褒められる。本当は難しいことを簡単にすることが大事なことになるのだが、文章を数式のように脳内で展開していくと、自分でも思いもしなかった結論に達することがある。それがたまらなく面白く、僕はついその過程を全て書いてしまう傾向にある。体験したこともなく、釣り人達の間でどう捉えられているのかなど全く知りもしないまま、もちろん自ら検証もしないまま、勢いだけで書いてしまうのだ。つまり、検証は読者の皆様に委ねているわけで、これは確かにトンデモな企画だと言わざるを得ない(笑)。先月の「ジョンソン総括2007」は久しぶりの能書きで、賛否両方それなりの反響があった。でも、今号のような原稿も僕なので、どちらもあるしく。

「復活したところで、当時の程度の実績があったっつーワケ？」という声も多いわけだが(笑)、この連載本来のテーマである「トーナメント」としての復活は、今年も叶わなかった。結果が出てしまうスポーツは残酷である。負ければ悔しいのは当然だが、それでも「好きなことだからこそ」の感動なり、次へ向けての糧なり、何かしら得られるものがある筈なのに、それらを口に出した瞬間に全て負け惜しみで片付けられてしまう。僕は、へら釣りは「遊び」なんだから、「楽しみ方は人それぞれ」と書いてきている。ただし、その延長で僕の口からハッキリ「僕にとっては過程が大事であり、過程こそが楽しい」などと言ってしまったら、これは本当に負け惜しみでしかない。「復活」という「結果」が目標なのだから、「結果が全て」を受け入れるのがスジなのだ。それでも今日までの「過程」を書き続けることを許されてきた僕は、全ての


言葉を飲み込んで黙々と努力を積み重ねている他のライバル？達に比べれば、とても幸せな環境なのである。

連載のテーマ的には今年も足踏みだったけど、脱線部分では進展があったし、ウキは相変わらずだけど、ハリはかなり結んであるし、買ったばかりのプライムエリアのバッグには、エサもたっぷり入っている。ずいぶんと進歩したもんだ？ さらに、釣り以外のプライベート部分(仕事も含む)まで総じて振り返っても、今年の僕は精一杯生きたと思う。「ないない」といつも書く時間の使い方、若干の検討の余地は残ったが、それでも大きな無駄使いはなかったような気がする。この三日間ほとんど寝ていないせいでハイなかもしれないが、清々しい気持ちでいっぱい。こんな気持ちで迎える年末は、連載始まって以来いや、人生初めてかもしれない。...事故にでもあって死ぬ前兆かな(笑)??

昔から「釣り天狗」という言葉がある。これは、他人より高釣果を叩き出せるようになった釣り人が、「自分はエラくなった」と勘違いして他人を見下す態度をとるようになった状態を指して使われる他に、釣れないクセに能書きを垂れる「自称釣り名人」達を嘲笑する言葉でもあると思う。例会が始まる前の管理釣りの事務所内は、会話だけ聞いていると、まるで全員が名人のようだが、一日が終わる頃には、ハッキリと結果が出てしまうのが例会。つまり、朝は名人に見えた釣り人の多くが、「実はへボだったんじゃないのオ？」ということになる。真剣に打ち込んでいれば打ち込んでいるほど、そういった存在が許せないのか、軽蔑の目で見てくる人が、若い、所謂トーナメントと呼ばれる人達の中には結構いると思う。が、僕はそんな「なんちゃってな名人」達を、「愛すべき脇役」と捉える必要があると思う。この業界を根底か

新作!! 慎重にテストを繰り返した底釣り専用タイプ。杉山作初の美しいブラックボディで登場!

【底釣りスタイル】



杉山作

繊細な「底」を完全表現する専用タイプ。
 ●ボディは羽根2枚合わせ5.5mm径。精悍な極薄ブラック塗装仕上げを採用
 ●タリシ製ホイトトップ(内径1mmパイプ)採用。軽量かつ視認性大UP!
 ●サイズ:一番(T110cm 89cm カーボン足4.3cm)~六番(T17.5cm B16.5cm カーボン足4.7cm)
 ファンサイズごとにバランスを突き詰めた設計で、スムーズなナジミと理想的な返しを実現!
 ●定価1本7,350円(税込)

取り扱い店(五十音順)
 埼玉・越谷 かわせみ(☎048-969-5067) 茨城・下妻 こやの釣具(☎0296-44-1619) 東京・渋谷 サンスイ川釣り館(☎03-3499-5025)
 埼玉・入間 へらの三水(☎042-964-2093) 栃木・益子 フィッシングハウスほその(☎0285-72-2215) 神奈川・川崎 鮎仙人(☎044-287-7470)
 東京・吉祥寺 丸勝(☎0422-22-8923) 東京・青梅 吉川釣具店(☎0428-22-2467)

ら支える貴重なお客様層だからだ。この業界で「何とかなってやりたい」という野望を持つトーナメントならば、なおさらそういった意識は必要だろう。色気は全くなく純粋にトーナメントを楽しんでいるだけの人であっても、管理釣り場以外の、ローカルな野釣りから本格的な大型狙い専門のダム師まで含めたへら釣り総人口のおそらく大部分を占めるであろう「なんちゃって」の存在を否定してしまっているのは、トーナメントの開催自体が危ういものになりはしないか。競技がこの釣りの発展を支えたことは明らかだし、月例会開催というカタチをとる釣りクラブが一般的で、競技に何かしらの関わりを持つ釣り人は多いが、メーカー主催のメジャートーナメントに真剣に向き合っている釣り人は、とても少数派である。つまり、「自分とは別世界にいると感じる」人達が出したお金で「何とかなって」いる業界に属するメーカーの「宣伝イベント」が、メジャートーナメントではないのか、ということである。「地区予選には参加費を払うじゃないか」という反論があると思うが、釣り場に支払う料金と、弁当代、景品代、社外スタッフへの手当、メーカー社員の準備から当日までの人件費等を考えたら、とても割が合う仕事ではない。さらに、交通費支給の有無は別として、全国大会参加費はどこも無料だ。メーカーの経営判断によって、いつなくなってもおかしくないイベントなのだ。

「毎年12月は締め切りが早い。年末進行というやつで、正直言ってかなり厳しいスケジュールとなる」。毎年こんなことを書いてるような気がするのですが、昨年と一昨年の2月号を手エックしてみた。が、触れていなかった。しかし、それなりにテンパってはいたはずである。特に店長になって最初の年末を迎えた昨年は、原稿どころではなかった筈で、よく書

けたもんだと我ながら感心してしまう。もっともネタがナリーズ杯だとすれば、「書けませんでした」では済まされなかったわけで。そして今年もメインネタとして真っ先に浮かんだのは、第三回ナリーズ杯。どんな風に書かれるのかと30名以上の参加者に監視されているのかと思えば、書かないわけにはいかない。ただ、第一回と第二回のレポ、および第三回の予告編となる前号迄で、言いたいことはほとんど書き尽くしてしまった気がするし、「そろそろ全編ナリーズ杯っていうのは勘弁してね」という里ちゃんの声もあり、…こんなもんなんです。大会の模様はたつぷりの写真でお楽しみ下さい。「里ちゃん註」字が多過ぎて無理!

僕の毎月の二大イベントは、職場のシフト表作成と原稿執筆。16日から翌15日までのシフト表を作り始めるのが月の前半で、それが終わると原稿。ところが今月は、原稿とシフト表が年に一度の同時進行月なのだ。

原稿はもちろんだが、シフト表もなかなか厄介。すんなり組み終わる月はずくない。ウチはいつも書いているように年中無休の会社だが、土日や祝日は誰だっけ休みたい。そこで休みの希望をとりまとめ、シフトに影響のないように配置していく。休みの希望は早い者勝ちではないが、全員が見られるようリストにして貼り出している。人気集中日は「スラせる人はスラす」配慮が可能である。そのため、「この日は出勤者が誰もいなくなっちゃうじゃねえかー!」というように困った事態にはならないし、今のところジャンケン大会にもならず済んでいる。が、頭数だけ揃えば済む話でもないのが難しいところ。新人を入れる営業コースが限られてしまうから、新人とそれに毛の生えたようなメンツが数名いる僕の店では、「コイツとコイツと一緒に休んだらアウト」という制約が多くなってしま

う。で、鉄板の休みはいじらずに、「どうでもいい」休みを動かしながら何とかシフトを埋め、出来上がったものを俯瞰すると、月の半分連続出勤者がいたり、飛び石連休ばかりだったり…もちろん、これらも修正対象である。さらに、日祝日の出勤日数も公平になるようカウントしなければならぬ。が、最終的には自分のためになるので仕方ない。僕の都合優先で組んだようには「見えにくい」シフトを作るには、それなりの労力が必要なのだ。

前任者はあまり休みの希望を聞き入れなかった。忙しい年末は、たとえ一日だけであってもダメ。もちろん店長の考えのもと、好き勝手にやる権利はあるので、何も不正なことではなかった。しかし、不定休であるにも関わらず、特定の日を優先的に休めないというののは先の予定が全く立てられないということになるわけで、夏休みや年末年始、ゴールデンウィークなどの世間的には大型連休と呼ばれる期間が近づくと、不満の声をあげる者が多かったのも事実だった。社員は不定休でも、その家族はそうではないのである。帰省や家族旅行のプランニングは、かなり早い時期から始まることを考えれば、週末も祝日も関係ない社員にとって、せめて希望の休みは叶えてやりたい。日常業務に差し支える可能性のあるものは極力排除しておきたかった僕は、引き継いですぐに大きく方向転換をした。…その結果、毎月自分の首を絞めることになった。部下の希望をイチイチ取り入れていたら、どれだけ大変になるのかを、前任者はよく知っていたのである。管理者一年生のアマさを痛感。勉強になった一年間でした…。

もうひとつ、シフト表を作成する上で大きな障害になるものがある。どこの会社でもそうだろうと思うが、ギリギリまで決まらない会議日程がそれだ。本社→支社→支店→支店→現場という順序で降りてくるわけだが、

それぞれがスケジュール調整にそれなりの時間を費やす。そのため、最終的に未端へ到達されるのが、翌日から新シフトがはじまる15日ということも珍しくない。ひどい月は新シフトがはじまって五日も経過した20日というのもあった。…「仕事は机の上でやるんじゃない。現場でやってんだ!!」。

「機器」管理体制。

11月29日の夕方、職場にたった一台しかないWindowsマシンが昇天した。

Winはまったく詳しくない僕だが、エラーメッセージの英文の中に、「unreadableなんたらかんたら」という文字列を見つけた。つまり、「読めなくなっちゃたよぉ」ということで、マイ・ドローピングModではよく遭遇したハードディスクのエラーである。Magでならソフト的に直す方法も知っているし、最悪の場合HDD交換になるとしても、とりあえずシステムの深い部分のバックアップをとる方法も分かるが、Winに関しては僕は全くの素人。セキュリティ上、日頃からHDD焼きが封じられ、今流行りのCSSDフラッシュメモリーも認識しない設定のPCでは、ファイルのバックアップはフロッピーを使ってやるしか手はない。イマドキのデータの重さを考えればHDDでやりとりする気には到底なれず、溜めに溜め込んだ日常業務で使うファイル類。それら全てを飲み込んだまま、ヤツは逝ってしまったのだ。…合掌。

業務時間中は社員全員が持ち歩く携帯端末と、本社のサーバとの仲介をする重要な役割を与えられながら、店に一台しかないPC。そのPCでウェブ(イントラネット)もメールもワードもエクセルもフル稼働というのはかなりヤバイ環境である。自宅さえ、サー

釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

- ・仕上がりは黒一色です
- ・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

1. ぐりへの釣会
2. ぐりへの釣会
3. ぐりへら釣会

- ・番付をインターネットで公開できます（無料）

お問い合わせご注文はお早めに！

取扱店：柴舟 03-3613-2727

ウキや小物の路入れに 転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～
2回目以降同じものをご注文の場合
は3,500円～

- ・8書体、8色を御用意しています
- ・角印も作れます

取扱店：

柴舟（東京都江戸川区）

03-3613-2727

佐伯釣具店（神奈川県川崎市）

044-911-3722

SANSUI川づり館（東京都渋谷区）

03-3499-5025

フィッシング中原（神奈川県川崎市）

044-711-8266

鮎仙人（神奈川県川崎市）

044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店
または下記HPまでどうぞ

office27
あとリエぐり

http://www.office27.com
E-mail:info@office27.com



バーとメインマシンは別なのに。日頃から、壊れた時はどうなるんだろうという不安は少しはあったが、PCの脇には緊急時の連絡先が貼ってあるし、サービスマンがすぐ飛んでくるんだろうと呑気に構えていた。なんだかんだ言っちゃって、自分のモノではないということが、そうさせたに違いない。

第一報を入れたのは19時過ぎ。

「すみません、壊れちゃったみたいなんですけどお」

「ハイ。では遠隔操作で覗いてみますので、パソコンの前に座っていただけますか？」

「…あのう、座るのは構いませんが、もう電源も入らない状態なので遠隔もへったくれもないと思っんですか？」

「あら～それは困りましたね。『今日はもう遅い』ですので、明日以降の対応になります。ただ、『明日はもう週末』になりますので、部品調達も含め本格的な対応は週明けになると思いますよ」

なんだそりゃ。話にならん。ところが、月末の締めに影響するということで、ふだんはあまり援護射撃をしてくれない支店からの圧力もあり、翌朝にはサービスマンが飛んで来た。が、問題が起きた。ハードディスクを交

換し、新規にXPをインストールしようとしたところ、ロッドドライブがディスクを読み込まないとのこと。新しいロッドドライブを取り寄せることになったが、これがタイムロスになった。即日手配には感心したが、どこでもドアがあるわけじゃなし、ロッド到着の時点ですでにもういい時間になっていた。当然、部外者一人を店に置いて帰宅出来るわけはない。お互い仕事とはいえ、かなり辛い時間ではある。サービスマンにしてみれば、僕は客。いろいろ気を遣っているのはよく分かった。僕はパソコンは嫌いではないので、作業を見るのも面白く、会話はそこそこ弾んだ。が、傍らにあるマイマオノートで仕事をしていた僕に、サービスマンがこう投げかけてきた。

「ところで、なぜプライベートではMacをお使いなんですか？」

僕はつい、こう返してしまった。

「色々あるけど…ロコがレインボー（実際は6色）だったっていうのが一番の理由かな。今はモノトーンになっちゃったんで、つまらないんだよな」

それ以降、「アタリが飛んだ」の言っつまでもない。

結局、晦日中の復旧はならなかった。へ

「あれ、これって、月末の締めはどうでもいいのかい？ 29、30日の売り上げデータは何処へ行っちゃったの？？」 ……例年12月1日は、昨日までが嘘のように業務量が増える日。多い店で約3倍。僕の店で2倍半。一気にグチャグチャになった店の中で僕は絶叫した。

「そんなの関係ねえ〜！」

皆様、良いお年を。

江成公隆



へら鮎釣りの楽しさを追究し続ける...

No.506
Feb.2008

2

へら鮎

九隻



Monthly fishing magazine herabuna

特集

NEO-HERA Pro League 2007チャンプ戸井田祐一、登場!
冬の亀山湖で展開するスリルと興奮のスーパービッグフィッシュゲーム!!

エキサイティング ビッグフィッシュ ゲーム



大型新連載二本、一気に出し!

天才アスリートのウルトラ理論をズバツと公開!

杉山達也: ULTRA SPLASH!!

攻め、攻め、攻め! 「永遠のチャレンジャー」の心意気に熱くなれ!!

中澤 岳: 攻めの美学

「こだわりの店・黒べゑ」提供。夢の超豪華賞品をGET!

新春お年玉プレゼント

2007年2月1日発行 (毎月1日発行) 発行所 株式会社 九隻 編集者 戸井田祐一

昭和41年5月4日第3種郵便物認可
平成20年2月1日発行
第43巻第2号（毎月1回1日発行）

2008
2

エキサイティングビッグフィッシュゲーム

戸井田祐一

定価 一〇〇〇円

本体九五二円

(株)へら鮎社

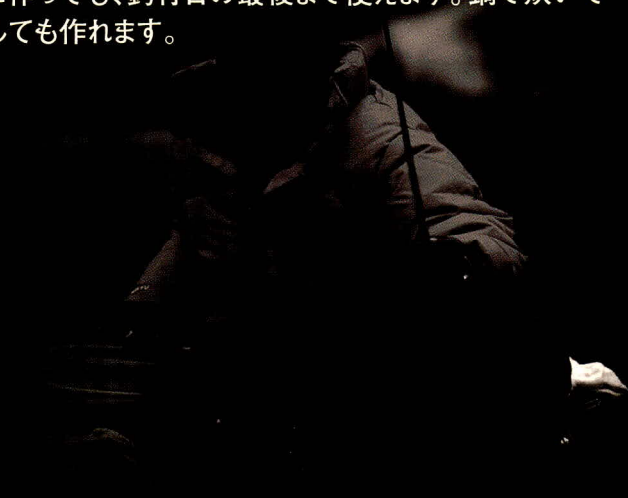


タフな奴、大好評。



強いネバリと、抜群のハリ持ちを実現。
ハリ抜けしにくい、タピオカウドンの素。
ネバリが強く、ハリ持ちが抜群のタピオカウドンが作れます。強くアワセてもハリに残り、テンポのよい手返して釣っていただけます。経時変化が少なく、ダレにくいいため、前日に作っても、釣行日の最後まで使えます。鍋で炊いても、電子レンジで加熱しても作れます。

●魚信(あたり) 25g×4



丸マルキュー株式会社

〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4

国際フィッシングショー2008
2/8-9・10 あなとみらいパビリオン横浜

マルキューホームページ内の「へら鮎天国」では、新鮮な釣果情報を掲載中。あなたのお気に入りの釣り場の情報が、見つかるかも。
<http://www.marukyu.com/> マルキューへら鮎メールマガジンも、お申込はこちらから。

お問い合わせ 本社・桶川工場:048-728-0909 大阪支店:072-824-0909
九州営業所:0877-44-0909 九州営業所:0942-82-0909
ホームページアドレス <http://www.marukyu.com/>

釣り場でエサに困ったら
iモード・ホームページ
<http://www.marukyu.com/i>

釣れるヒント満載!!
へら鮎天国

